

〔巻頭言〕

人間科学研究科紀要第 16 号発刊にあたって

人間科学研究科長 藤 田 千鶴子

平成 16 年 4 月開学した鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻修士課程も、昨年 15 周年を迎えました。その間、平成 18 年度より、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成指定大学院（第 1 種）に認定され、以来、幅広い知識・技能と豊かな人間性を備えた臨床心理士の養成に努めて参りました。また、昨年度からは公認心理師の養成にも対応すべく、従来の「こころ」と「からだ」の両分野からの研究の統合に加え、特に実習の一層の充実にかけてきました。本紀要も昨年度には 15 周年記念第 15 号を発刊することができ、新たな歴史を築くべくスタッフ一同気持ちも新たなる年度の研究、教育を計画しておりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が世界中を席卷し、私たちが今まで当たり前のように享受していた「普通の生活」は次々と浸食されてきました。私たち教育者・研究者もまた様々な難題に襲われ、学生・大学院生たちの学習・研究、そして「学生らしい」生活の、また大学院附属の心理臨床相談センターの活動の質の確保のために、様々な課題に直面し、解決への方策を模索した一年でした。そのような状況の中で心理職専門家の養成期間として最も難しいことの一つは院生のための学外実習の場の確保でした。けれども各機関がそれぞれの状況の中で心理専門職養成のためできうる限り最良の機会を提供して下さったことは何よりの支援と感謝しております。

本研究科は、被害者支援、発達支援、スクールカウンセリング高齢者支援、家族支援等様々な領域を専門とする臨床心理士、公認心理師有資格者とともに、医学、精神薬理学、福祉学、文化人類学を専門とするスタッフを擁し、教育、専門職としての心理職養成とともに、研究活動にも日々励んでおります。コロナ禍の状況下でもそれらの成果のほんの一端を本号においてもご紹介できることを嬉しく思います。

開学 16 年目を迎え、これまでの皆様のご支援に感謝しますと同時に、今後も更なる研鑽を積み心理臨床の領域の発展に寄与できますようスタッフ一同願いを新たにしております。皆様のますますのご支援をお願い申し上げます。